

2019年7月24日

各位

会社名 株式会社トーヨー養父農業生産法人  
代表者名 代表取締役 岡田吉充  
所在地 兵庫県養父市大藪 1153-3

### 「トーヨー養父第二農場」竣工のお知らせ

株式会社トーヨー養父農業生産法人（本社：兵庫県養父市／岡田吉充）は、養父市において建設を進めてまいりました「トーヨー養父第二農場」が完成いたしましたのでお知らせいたします。地域の営農戦略として定めた「産地パワーアップ計画」に基づき、農業者等が高収益な作物・栽培体系への転換を図るための取組を総合的に支援することが目的である「2018年度産地パワーアップ事業」の事業者として地域農業の活性化に貢献いたします。

#### ■本計画について

最新鋭の栽培技術の試験圃場を取り入れたトマトハウス施設の運営をいたします。この栽培技術により通年での栽培が可能となり養父の厳冬を乗り越えた高糖度でコクのあるトマトを安定生産・安定品質での出荷を可能にし、養父市のブランドトマトの確立を図ります。



ハウス全景

#### ■目的

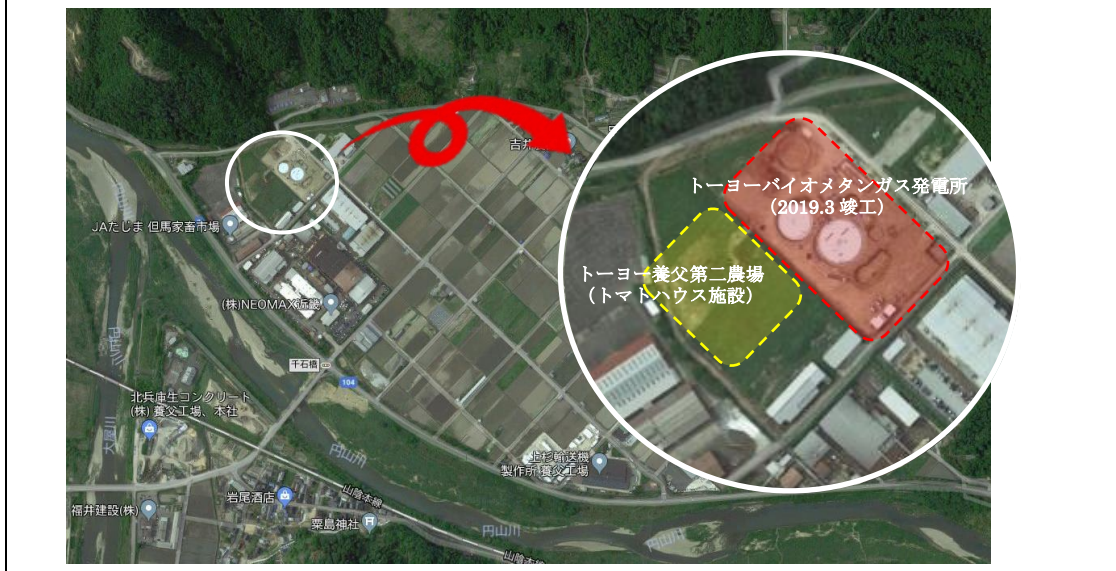
養父市は、夏は暑く冬は寒い豪雪地域のため、一般的な農業形態には難しい地域ですが、本事業においてはトマトを栽培品目に選び、夏場を植え替え時期として秋に定植をおこなう、豪雪にも耐えられるハウスで冬超えをします。厳冬を超えたトマトは糖度が増し、養父市のトマトブランドの後押しをいたします。

### ■期待される効果

同地域にてすでに栽培しているトマトにおいて、各パイヤーから最高品との評価を受けております。秋に定植をおこない養父の冬の寒暖差で栄養をたっぷり蓄え、ヤシガラを培地に使用し養液灌水で栽培する、程良い酸味と濃い味わいが特徴の高糖濃度トマトです。本事業により生産規模や販路を拡大することで地域ブランドを構築し、知名度を上げ、ブランドを構築することで、生産量や出荷量が増え地域の農地利用が不可欠となります。

### ■施設概要

名 称	トーヨー養父第二農場
敷 地 面 積	7,482 m <sup>2</sup>
延 床 面 積	4,557 m <sup>2</sup>
構 造	鉄骨造
高 さ	最高部 7.05m
生 産 物 / 品 種	トマト/セレブスイート
雇 用 予 定 人 数	7名予定
定 植 時 期	2019年9月
出 荷 量	約 163 t (5年目まで)



### ■ハウスの特色

温度、湿度、CO2、日照、灌水、給液など作物に適した環境の自動制御をおこないます。軒高を高くし誘引を垂直化することで太陽光を最大限に取り入れ、密植栽培を可能にし、収量のアップと糖度 12 度を目標に生産いたします。高所作業車や自走式防除機、選果器の導入により、作業の省力化を図り延べ人数平均 4.6 人（社員 1 人、パート 3.6 人）での運営が可能になるので、生産性・機能性・経済性を徹底追求した環境・人・作物に優しいハウスです。

#### ■今後の展望

AI や IoT などの最先端技術を活用し環境制御をおこない、最適な収穫時期をロボットと AI で判断いたします。品種ごとに最適な栽培をおこなうことで収量のアップや高糖度を実現します。

生産～収穫～出荷までの省力化を図り「スマートアグリ」を実践します。ハード&ソフトと運営を含めパッケージ化した新たなビジネスモデルを確立し販売することで企業の発展を図り、養父特産、トーヨー特産として幅広く販売しブランド力を強化することで、地方創生と農業振興に貢献します。

さらに、再生可能エネルギーとして注目されているメタン発電所において、副産物として生成される消化液の利用等、異なる分野とも連携し、養父市のさらなる発展に寄与してまいります。

#### ■グループ概要・アグリ事業

トーヨーグループは「人に寄り添う企業」を掲げ「安心安全で住みやすい街づくり」を目指しております。アグリ事業においては、埼玉県羽生市に人工光利用した育苗室を設けた研究棟と隣接した太陽光利用型植物工場の水耕栽培をおこなっております。施設は年間を通じて一定の温度に保てる設備や独自の設備配管技術を導入し、さらには IoT 技術を取り入れ雇用問題にも対応できる、これからの日本の農業に適した最新型の施設と考えます。今後、あらゆる分野にてさらなる雇用創出や地域経済の活性化に貢献してまいります。

お問い合わせ先 株式会社トーヨーホールディングス 広報室

電話：03-4400-6104 MAIL：toyo@toyo-group.com